

FlexRayのシミュレーション環境と共通APIの開発

開発者: 吉川 彰一

• キャッチコピー

FlexRayの開発効率を向上させるシミュレーション環境の実現

• 開発の背景、目的

今日組み込みソフトウェアの開発コストが上昇する中、短期間の開発と高い品質が求められるようになりました。組み込みソフトウェアの開発手法として、PC上でのシミュレーション環境を用いた開発手法をご提案、その具体的なテーマとしてFlexRayを選択しました。

• 実現した主要な機能、特徴(従来との比較)

AUTOSARの定めるAPI仕様を元に、WindowsとLinux上でFlexRayの開発を可能にしました。従来の実機を用いて開発する手法に比べ、開発のスピードアップ、多人数での共同開発、バグの縮小などが期待できます。

• 市場(あるいはユーザー)にもたらす効果

次世代車載LANプロトコルとして注目されているFlexRayの開発環境の整備とFlexRayの普及に貢献、安定したソフトウェアの供給が期待できます。

• 市場(あるいはユーザー)に向けたメッセージ、セールストーク

これは、FlexRayの製品のご提案でもありますが、大きく見ると組み込み開発の開発手法の提案でもあります。今後、組み込み開発において、シミュレーション環境を用いた開発手法が有効になると考えています。

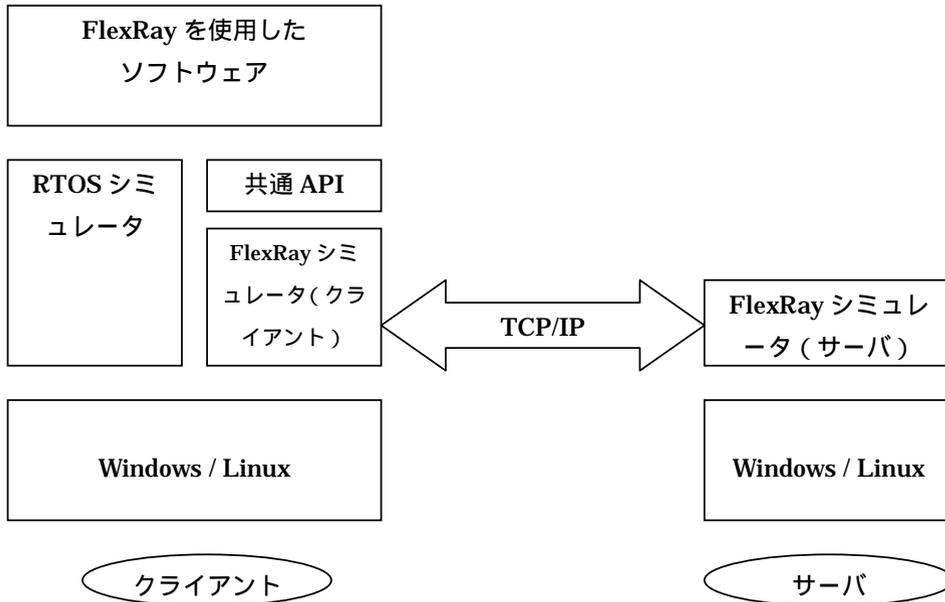


図1
FlexRayのシミュレーション環境上での開発

図2
シミュレーション開発後の
実機上での開発

